

# 英語科学習指導研究委員会

## 一 テーマ

学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びを実現するための外国語・英語学習のあり方  
～小中連携を通して～

## 二 テーマ設定の理由

今年度は教育課程研究協議会の在り方が見直され、それに伴い、各校や各自の研修の在り方も問われることとなった。教育課程研究協議会による授業実践を見る機会はなかったが、日々の授業実践は絶えることなく続いている。

小学校では、「音声面を中心に学んできたことが中学校の段階で文字への学習に円滑に接続されていない」ことや「英語の発音とつづりの関係、文構造の学習に課題がある」という小中接続の課題を踏まえ、小学校5・6年に「外国語科」が導入され、数年が経過した。文部科学省による中学生への質問調査では、「小学校での英語の授業が役に立った」と回答する割合は改訂前よりも向上しているものの、英語が好きではない理由として、「文法が難しい」「単語のつづりや文字を覚えるのが難しい」「英語の文を書くのが難しい」が上位を占めている。これらの事から、小学校から中学校への接続（「読むこと」「書くこと」に慣れ親しませる指導から、つづりや文字を覚えたり、文を書く指導や文法指導）が引き続き課題であることがうかがえる。その課題を乗り越えていくには、子どもたちが英語で自分の思いや考えを伝えたいと思えるような支援や評価の在り方が問われているように感じる。

そこで、今年度は研究内容として次の2点に着目して研究を進めてきた。

- ① 子どもたちが主体的に自分の思いや考えを表現できるような教師の支援
  - ② 話す意欲を高めるための個々への支援と評価の在り方
- ～小中連携を通して～

相手意識を大切にした言語活動を通して、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする姿を育てていくことは、校種関係なく共通の課題である。さらに、評価については小学校の教科化による評価のつけ方や、中学校の学習指導要領に応じた評価の捉えやその方法の差などに課題があると感じている。それらの課題を少しでも解決できるようにしたいと思い、本研究テーマを設定した。

## 三 研究の経過

第1回委員会 令和7年5月2日（木） 研究テーマ設定と研究計画の作成 （教育会館）

委員の独自の研修参加や各校での実践など （各学校）

第2回委員会 令和7年11月25日（月）本年度の反省・研究のまとめの作成について  
（教育会館）

## 四 研究の内容

### 1 実践について

#### (1) 上田市立東小学校個別最適な学びとしての研究

##### 第4学年 外国語活動 学習指導案

○教科書名：Let's Try 2（東京書籍）

○単元名：Unit 8 This is my favorite place. ～自分の好きな学校の場所を伝え合おう！～

○関連する領域別の目標：話すこと（やり取り）

（イ）自分のことや身の周りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

○単元の目標：自分の好きな学校の場所とその理由を伝え合おう！

○単元計画

時	○主な学習活動	主な指導内容		
		知技	思判表	学び
1	○学校の場所の英単語を聞いたり、発音練習したりする。	学校の場所やそれに関する語彙を知る。		
2	○学校の好きな場所についてのやり取りを聞き、単元の目標を据える。			自分の好きな場所やその理由を英語で伝えたいという気持ちを醸成する
3	○学校の様子についての映像や、やり取りを見て、学校のそれぞれの場所の表現を学習する。	学校の場所やそれに関することを聞いて、理解する。		
4	○自分の好きな学校の場所について紹介する英語表現を見つける。	自分の好きな学校の場所を紹介するのに必要な語彙を知る。		
5 本 時	○自分の好きな学校の場所とその理由を伝え合う。		自分の好きな学校の場所とその理由を伝え合う。	自分の好きな学校の場所とその理由を伝え合おうとしている。

○研究内容（個別最適な学び部会）

今年度、本部会では、昨年度の課題を踏まえ、全校研究テーマである、「友とともに、自分から学びを創る子ども」の中から、「自分から学びを創る子ども」に焦点を当て、すべての子どもたちが「自分から学びを創る」ことができる授業づくりをテーマに据え、研究を進めていくこととした。

本研究部会で挙げられた、「自ら学びを創る子ども」の姿とは次のようなものである。

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| ・目的をもって取り組む姿             | ・自信をもって他者に伝えていく姿 |
| ・自己理解を深め、自分に合ったものから取り組む姿 |                  |
| ・興味をもったものを追求していく姿        | ・疑問や不思議を追求していく姿  |
| ・今までの既習内容や経験を使って表現していく姿  |                  |

部会の中で昨年度の実践や日頃の授業づくりを振り返り、次の授業づくりのポイントを取り入れて授業づくりを行うことで「自分から学びを創る」姿を増えるのではないかと、仮説を立てた。

①見通しがもてる授業

②やりたい内容・できる内容がある授業（多様な学び方・内容の選択）

③自己をしっかり振り返る時間の設定

この仮説に基づき授業を行い再度、ポイントについて検討した結果、問いと答えの距離が適切で、子どもが学習の見通しをもてることの大切さや、順番・内容・学習方法を子ども自身が選択できることの良さを実感した。また、一人で取り組むことが難しい子どもへの支援、逆に自分でどんどん取り組める子どもへの支援の両方が重要であることも分かった。そこで授業づくりのポイントを、次のように整理した。

①見通しと選択（ゴールの視覚化・ゴールまでの道筋の選択）

②C 評価や A 評価の子どもたちへの支援

今年度は、「自分から学びを創る」姿を目指すため、上記の2つの授業づくりのポイントをもとに授業づくりを行い、実践を重ねていくこととした。

○外国語の授業での実践

①見通しと選択（ゴールの視覚化・ゴールまでの道筋の選択）

見通しとして単元の最初に教員が自らの学校の好きな場所を紹介することで、自分の好きな学校の場所を伝えたいという気持ちを引き出し、Unit Goal を設定した。

②C 評価や A 評価の子どもたちへの支援

C 評価の子に個別支援をし、どこの場所が好きか、どうして好きなのか教員が確認したい。そのために、A 評価や B 評価の子ども達に自分たちの学校の好きな場所の魅力がさらに相手に伝わるようにチャレンジ課題を用意した。

○成果と課題

【成果】

- ・教師の例を提示することによって、子どもたちは他の人の好きな学校の場所を聞いてみたいという思いが生まれてきた。
- ・単元の見通しを持つことで、学校の場所の名前を意欲的に練習したり、その場所に関わる語彙を調べたり、聞いたりして自分の言葉として使うことができていた。

### 【課題】

・子どもたちが活動の最後にもっと時間が欲しいと言っていたので、言語活動の十分な時間確保をした。

## (2) 上田市立北小学校の実践

### 外国語教育における「深い学び」と「小中連携」に関する協議概要

#### ○深い学びにつながる言語活動の設計

協議では、単なる知識の習得にとどまらず、生徒の思考力を高める「深い学び」につながる言語活動の工夫が中心的な議題となった。その基本理念は、「相手を知り、自分を伝える」ことにあり、学びを教室内に限定しないアプローチが重視されている。

#### ○学習の基本サイクル

深い学びを促すための学習プロセスは、以下の4つの段階からなる循環モデルとして提示された。

段階	名称	主な活動内容
1	つかむ (Grasp)	学習場面の理解、課題の把握。
2	考える (Think)	【個人での思考】 実際のコミュニケーション場面からの情報収集 (インタビュー、メール等)。人やものの紹介、自分の考えの整理。
3	学び合う (Learn Together)	【ペア・グループ・全体での協働】 収集した情報の整理、分析、共有。〈話し合い活動、思考ツールの活用。グループ発表、質疑応答。〉
4	深める (Deepen)	【思考の再構築】 自分の考えや気持ちがより相手に伝わるよう意識する。・ICT (録音・録画) を活用し、正確さなど質を向上させる。・ALT からの助言を活かす。

#### ○言語活動の目的と環境整備

効果的な言語活動の実施には、目的の明確化と環境整備が不可欠であると強調された。

- ・ 目的の明確化：活動のゴールを明確にすることで、生徒の取り組みが具体的になる。
- ・ 雰囲気づくり：生徒が安心して発言できるクラスの雰囲気作りが重要である。

- **言語的ハードルの調整**：「相手を意識する」ことで、単文や単語レベルからでもコミュニケーションを試みることを奨励し、言語使用の心理的ハードルを下げるのが有効である。
- **振り返りの充実**：活動後のまとめと振り返りを充実させ、学びを定着させることが求められる。

## ○小中連携の円滑化に向けた課題と方策

小学校での外国語活動と中学校での外国語科の円滑な接続は、教育の連続性を確保する上で極めて重要な課題として議論された。

### ○現状の課題

- **連携不足**：校舎が隣接していても、小中学校間での密な連携が図られていない場合がある。
- **接続の不明確さ**：小学校で学んだ内容が中学校の学習にどう繋がるのか、また中学校の教科書内容が小学校の学習とどう関連するのかが不明確である。
- **目標の不透明さ**：各学年の「Can-do リスト」で「どこまでできるようにするか」という到達目標が明確でない。

### ○連携強化のための方策

円滑な接続を実現するために、以下の具体的な方策が提案された。

- **Can-do リストの共有**：小学校の Can-do リストを中学校の教員が把握し、それを基に中学校での指導計画を立てる。また、中学校の教員が小学校の学習方法を学ぶ機会も重要である（研究者からの指摘）。
- **情報交換の促進**：外国語部会などを通じて、小中学校の教員が指導において大切にしていることについて情報交換を行う。
- **共通課題の設定**：小学校で作成したものなどを、中学校でさらに発展（レベルアップ）させるような共通課題を設定する。
- **Classroom English の標準化**：小中で共通して使用する Classroom English を一覧表にし、一貫した指導を行う。
- **教材・指導法の工夫**：ピクチャー・ディクショナリーのような視覚的支援や、ジェスチャー、リアクションを積極的に用いて、英語でのやりとりを楽しむ経験を継続させる。

## ○学習意欲と成功体験を育む教育実践

生徒の学習意欲を引き出し、持続させるためには、知識の正確さだけでなく、コミュニケーションが成立したという「成功体験」が重要であると指摘された。

## ○学習観の転換

- 「できた」から「伝わった」へ：学習の評価視点を、文法的に「できた」かどうかから、「伝えたいことが伝わった」というコミュニケーションの成功体験へと転換させることが重要である。
- 意欲から正確性へ：「伝えたい」という意欲が高まることで、結果としてより正確な表現や語彙の習得に繋がるという好循環を生む。

## ○意欲向上に繋がる実践事例

協議では、生徒のモチベーション向上に繋がる多様な実践事例が共有された。

- 学校全体での取り組み：
  - 行事の英語化：運動会を英語で放送したり、6年生が英語で司会進行を行ったりする。子どもたちはすぐに慣れるとの報告があった。
  - 日常的な英語環境：昼休みにALTが常駐する「Englishサロン」を設けたり、「English time」に得意な生徒の会話を放送したりする。
  - Small Talkの継続：小学校から中学校までSmall Talkを継続的に行う。
- 地域や外部リソースの活用：
  - 地域連携：地域の観光客にインタビューするなど地域に目を向けた活動を行う。
  - 国際交流：姉妹校との交流（5・6年生はほぼAll Englishで実施）や、地域在住の外国出身者との交流会を実施する。

## ○実施における留意点と課題

これらの先進的な取り組みを推進する上で、考慮すべき留意点や課題も複数挙げられた。

- 人的リソースに関する課題：
  - ALTへの依存：実践内容がALT個人の力量に大きく依存する側面がある。
  - 教員の意識：一部の教員には英語での活動に対する「アレルギー反応」が見られることがあり、校内でのコンセンサス形成が必要となる。
- 多様な学習者への配慮：
  - 支援の必要性：特別な支援が必要な生徒へのサポート体制を整える必要がある。
  - 参加機会の均等：交流会などの活動が、一部の「選ばれた人だけ」のものにならないよう配慮することが求められる。

- **活動設計上の注意点:**
  - **現実的な活動設定:** 発表された事例は「特別な感じがある」との所感もあり、修学旅行など、どの学校でも応用可能な場面から始めることが現実的である。
  - **情報収集のアンテナ:** 教員が常にアンテナを高く張り、活動のヒントを積極的に探す姿勢が重要である。

## ○まとめ

全体を通して、外国語教育における「深い学び」を達成するためには、具体的なコミュニケーション場面の設定、小中連携における目標と評価の共有（Can-do リストなど）、そして教室外や学校行事など様々な場面で英語を使う環境（All English など）を整備し、児童生徒のモチベーション向上を図ることが重要であるという方針が読み取れます。これは、言語活動を単なる知識伝達で終わらせず、思考を再構築し、相手に伝わることを意識するための施策群と言えます。

## （3）上田市立第三中学校の実践

**令和7年7月22日 授業公開 2学年 Program 3**

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで学習してきた語彙や文法の意味・使用場面を理解している。</li> <li>・ これまで学習してきた語彙や文法を活用し、自分が興味のある一つの国の屋台の食べ物についての適切な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ there are many kinds of street food to try の紹介文から、興味がある屋台の食べ物について一つ取り上げて調べ、その事実や魅力について、自分の考えや気持ちなどを整理して、簡単な語句や文で、まとまりのある内容で話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ there are many kinds of street food to try の紹介文から、興味がある屋台の食べ物について一つ取り上げて調べ、その事実や魅力について、自分の考えや気持ちなどを整理して、簡単な語句や文で、まとまりのある内容を話そうとしている。</li> </ul>

【ねらいや学習活動】

時	ねらい(■)、生徒の活動(丸文字)	備考
1	<p>■教科書 Mao の紹介文 Around the world there are many kinds of street food to try. から自分が紹介したい屋台の食べ物の情報をインターネットから探す</p> <p>①紹介したい国の屋台の食べ物を探す。</p> <p>②マッピングを作る</p>	<p>・マッピングメモを作る</p>
2	<p>■友達とやり取りをくり返して、マッピングを作る</p> <p>①マッピングをもとにやり取りを繰り返す。</p> <p>②やり取りを繰り返す中で、必要な内容をつけ足したり、参考になる表現などを取り入れたりしながら、まとまりのあるにしていく。</p> <p>自分の考え、相手への問いかけ、スピーチ文の流れ等に気をつける</p> <p>③自分のマッピングメモを見返す。</p>	<p>記録に残す評価は行わないが、生徒の活動を確実に見届け指導に生かす。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>
3	<p>■友達とやり取りをくり返して、マッピングを充実させる</p> <p>①仲間から質問を受けて、マッピングをもとにやり取りを繰り返す。</p> <p>②やり取りを繰り返す中で、参考になる表現などを取り入れさらに、まとまりのある内容になるように再考する。</p> <p>③自分のマッピングメモから自分の伝えたいことを動画に残す。</p>	<p>【評価】</p> <p>生徒の提出した動画から、評価する。</p>

主眼：自分で調べた世界の屋台料理についてのやりとりをする場面で、質問や意見などから自分の紹介する内容を見返す活動を通して、自分の紹介したい屋台の料理についてよりまとまりのある内容に深めていくことができる。

【展開】

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導や支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>	時間
導入	1 友達の発表を聞き、使用している英語や良さを共有する。	ア友達の食べ物は何かな。 イおいしそうな感じが伝わってくるな。	◇どんな所が良かったか気づかせる。  ◇クラスの友達に向けての紹介であることを確認する。	5
	Today's Goal 友達とやり取りをくり返して、よりよいスピーチをしよう。			
展開	2 スピーチをメモを取りながら聞き、質問できることはないか考え、内容に対して質問する。	イ because を使って理由を加えてみよう。 ウ伝える順番はわかりやすくなっているか考えてみよう。 エ内容を聞き取って質問することは難しいな。	◇クロームブックの活用、教科書の使用、友達と練習などそれぞれに合う方法で、スピーチを再考するよう促す。 ◇言語面でつまづいている生徒は、個別に支援する。 Do (Did) you ~? Can you ~? で相手へ質問をする。	2.5
	3 友達と発表と質問のやり取りをくり返す。 (3分×3回)			
	4 友達が使用している英語や、友達の良かったところを全体で共有する。	オ for example や when を使って分が長くなっていたから、私も使ってみよう。 カ What food do you want to eat? と問いかけていてやり取りっぽくなっていた。	◇仲間へ向けて相手が食べてみたくなるような内容になっているか、確認する。	5
	5 自分のスピーチを再考する。	キ作り方の質問をされたから、新たに紹介文の中に入れてみよう。	◇友達からの質問の内容を反映させての自分のスピーチの内容をより詳しくさせる。	1.0
	6 自分のスピーチを再考し動画を撮影する。	クしっかり練習して撮ろう		10
終末	7 自分の動画を見返し、ふり返りを書く。	ケ質問を受けてより詳しい内容になったな。	<b>【評価】</b> 記録に残す評価は行わないが、仲間からのアドバイスを基に、スピーチを修正できているか確認し、今後の指導に活かす。	5

○本時を終えて

- ・自分の紹介したいものを楽しそうに生き生きと仲間に伝える姿があった。言いたい内容がマッピングシートによく表れていた。誰に、何を、伝えたいか明確であれば、その情報をどんどん収集して単語レベルでマッピングできる。
- ・既習の because,when,that などを用いて、理由や気持ちを付け加えたりして、文章をより分かりやすくしようとする工夫も見られた。
- ・相手の内容を聞き取って、即興で質問を考え、相手に投げかけるという作業はハードルが高かったが、定型文 Do you know how to cook? What vegetables do you use? などの文を単語レベルで入れ替えて質問していた。

#### (4) 上田市立傍陽小学校外国語活動の実践

○教科書名：Let's Try! 1 (文部科学省)

○単元名：Unit 6 ALPHABET

○関連する領域別の目標：

聞くこと (ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかがわかるようにする

○単元の目標

3年生名前パズル—アルファベットバージョン—に挑戦しよう！

○単元計画

時	○主な学習活動	知技	思判表	学び
1	○アルファベットを A～Z まで、ATT のあとに続いて言ってみる。 ○ABC Song を歌う。	アルファベットの発音や、順番を知る。		普段生活している場所にアルファベットがたくさんあることに気が付き、興味を持つ。
2	○教科書 P22～23 の絵の中からア	アルファベットの		

	ルファベットを探す。	発音と文字の形を認識する。		
3 (本時)	○アルファベットを体で表現する。		アルファベットの形に着目し、友だちと協力しながら体全体を使って文字を表現する。	
4	○“ABC Race!”でアルファベットの順番を覚える。 ○アルファベットを自由に仲間分けする。	ゲームを通して、アルファベットの順番を覚える。	アルファベットの形や音に注目し、自由な発想で仲間分けをする。	
5	○名前パズルをする。	友だちの名前の綴りを確認しながら、名前パズルに挑戦する。		友だちの名前の綴りに興味を持ち、アルファベットでどのように表すのか知ろうとする。

○本時案

ねらい：アルファベットの発音と文字の形を知った子どもたちが、友だちと一緒に体を使ってアルファベットを表現する場面で、ABC Song を歌ったり、アルファベットの文字の形の詳細を確認したりすることを通して、友だちと協力して、体を使ってアルファベットを表現することができる。

【導入】

- ① アルファベットの発音と文字の形を一つずつ確認し、Today's Goal を示す。

【展開】

Today's Goal：体を使ってアルファベットを表現しよう！

- ① アルファベットカードを並べるゲームを行う。
- ・ABC Song を歌い、アルファベットの順番を確認する。
  - ・アルファベットカードを一人一枚配布し、ALT が順番にアルファベットを言い、言われたアルファベットカードを持っている児童は前に出て、カードを黒板に貼る。
- ② グループになり、協力して、体を使ってアルファベットを表現する。
- ・三人一組になり、ランダムに配布された文字を表現する。(1グループ8枚程度)
  - ・表現が決まったら、JT を呼び、写真を撮ってもらう。
  - ・写真は後日編集してアルファベットチャートを作ることを伝える。

【終末】

- ① 本時のふり返しを行う。

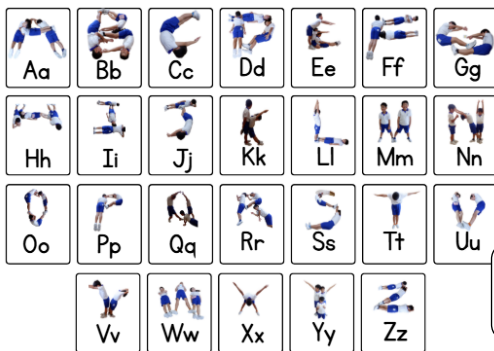
○成果と課題

○文字に抵抗がある児童も積極的に文字の形を確かめ、友だちと相談したり、協力したりして、体を使ってアルファベットを表現することを楽しんだ。

○友だちと相談、協力することを通して、チームビルディングの要素も取り入れることができた。

▲文字の形を真似して表現しているが、考えている間に、何という名前の文字を表現しているのかがわからなくなる児童がいた。

○参考資料

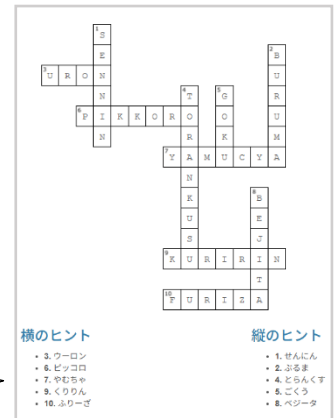


完成したアルファベット  
チャート

名前パズル (第五時)  
(名前は仮名)

ABC Race!  
(第四時)

<https://activities.earthiverse.ca/abcrace/>



## (5) 上田市立第六中学校の実践

### 本年度の研究計画

#### (1) 研究テーマ

基礎基本を身につけ、コミュニケーションを図る**楽しさや喜びを分かち合う英語学習**  
～生徒が学び方の見通しが持てる**単元ゴールの設定**と、学びの自覚ができる**振り返りの場の設定**～

#### (2) 研究の重点

- ① 生徒の興味・関心を考慮した単元ゴールを設定し、そこからつけるべき力を明確化し、単元の流れをデザインする。
- ② 単元ゴールをもとに、Today's Goal を設定する。Small Step で達成感を実感できる授業を仕組む。
- ③ ペア活動・グループ活動を積極的に取り入れ、場面や相手意識をもったコミュニケーションの場を設定する。
- ④ 授業の終末には自己評価カードを使った振り返りの場を設定する。本時で学んだ表現を書くことで、使える表現を蓄積し、単元ゴールの達成に活かす。
- ⑤ 単元ゴールとリンクした単元終末の評価方法を工夫する。  
(Retell/スピーチ/Small talk/レポート・・・)

### 本年度の研究計画の詳細

六中グランドデザイン 前向きな学習への取り組み

ねばり強く追究する姿 ICT を活用した、主体的・対話的で深い学び

(必要感を生徒自身が感じる家庭学習への支援)

全校研究テーマ 課題をもち 友と関わり 学びを深めていく生徒

## (1) 英語科研究テーマ

英語科で考える「課題をもち 友と関わり 学びを深めていく」とは… (英語科教師の願い)  
→ 「既習表現を使って簡単な情報や考えなどを伝え合うことができる姿」

そのために ☆基礎・基本となる知識及び技能の確実な習得  
☆思考力・判断力・表現力等の育成  
☆主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の実態 ○さらに高めたい生徒の姿 ●つまずきの傾向

- コミュニケーション活動や ALT との対話活動などに意欲的に取り組むことができる生徒が多い。
- 授業に意欲的に取り組む生徒が多い。
- 復習が不十分だったり、学習習慣がなかったりして、基礎・基本の定着が不十分な生徒がいる。
- 表現したいことはあるが、それに必要な英語の知識がないために表現できない生徒がいる。
- 表現しようとする意欲がない生徒、級友と関わることを苦手としている生徒がいる。

「学習指導要領 + 新教科書 + デジタル教科書」 + Chrome book にデジタル教科書

- ・外国語科の目標「簡単な情報や考えなどを、理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」
- ・Small talk や Retell などの表現活動を継続的に行う。
- ・デジタル教科書を使用する。(音声・視覚)
- ・指導と評価の一体化

### ☆英語科研究テーマ☆

基礎基本を身につけ、コミュニケーションを図る楽しさや喜びを分かち合う英語学習

～生徒が学び方の見通しが持てる単元ゴールの設定と、学びの自覚ができる振り返りの場の設定～

#### ☆願う生徒の姿☆

- 基礎・基本となる知識や技能を身につけ、場面や目的に合わせながらそれらの力を正しく活用し、友だちや教師と積極的にコミュニケーションを図っていこうとする生徒
- 仲間の発言への共感や認め合いなど開かれた人間関係を作り、喜びを分かち合っていこうとする生徒

## (2) 教科の基本方針と研究の方向

「コミュニケーションを図る資質・能力」を伸ばしていくために、次の点を中心に取り組む

- ①ドリル的な学習活動を行う場面で基礎的な内容の定着をはかる。
- ②学習方法の定着と基本的な知識や英語への理解を深めることを目的に、定期的に家庭学習、課題を出していく。
- ③ALT を交えたやりとりや、グループやペアによる表現活動の場を多く設定し、場面や状況に適したやりとりを行う力を伸ばす。

### 【指導の留意点】

- ・基礎、基本の定着を図るフィードバック形式（家庭学習やワークブックの利用）を常に心がける。
- ・個々の発表や意見を大切にできる学習の雰囲気作りをしていく。  
（相手に聞こえる十分な声量・失敗を恐れない・人の間違いを笑わない・相手意識をもって聞く態度）
- ・身近な素材に即した教材を取り入れ、興味・関心が途切れないようにする。
- ・自分の考えや、気持ちを英語で表現できる場面を多く設定する。

### (3) 研究の具体

#### (1) 指導と評価の一体化

- ・単元の目標からの単元デザイン
- ・自己評価カードの工夫（使える表現の蓄積）
- ・単元終末の評価の仕方（Retell／スピーチ／Small talk／レポート・・・）

#### (2) 家庭学習の工夫

- ・次時につながる宿題の提示（次時の内容を伝えたり目標を設定したりする）
- ・何のためにやっているのかを意識させて取り組ませたい。
- ・音読練習を繰り返し行えるよう促す。

### (4) その他

(1) ALT の活用 特にコミュニケーション活動を仕組んでいく。

(2) 英語検定・スピーチコンテストの活用

年3回の英語検定実施 文化祭でのスピーチ、スピーチコンテストへの参加を積極的に呼びかける。

## Unit Goal 2年生（令和6年度）

Program 1	Please tell me about Miki and her friends. ～p.13 の語句を使って、引越していく美希と美希を送り出す友達について1分間で語ろう～	次の内容は必ず入れよう。 ①本文で分かった事実 ②自分の思い（その人になったつもりで）
Program 2	Please tell me about Canada and its nature. ～p.23 の語句を使って、カナダの様子や自然保護について、1分間で語ろう～	次の内容は必ず入れよう。 ①本文で分かった事実 ②自分が学んだこと・思ったこと
Program 3	Let's talk about street food with your friends. ～屋台の食べ物を題材に、自分の好きなものや、自分の知っている珍しいものについて話そう～	3人組（4人組）で3分間話します。（グループは直前にくじで決めるので、誰といっしょになるかわかりません） じゃんけんをして勝った人から話し始めます。 ○ 自分から話題を広げたり、進んで質問したりしよう。 ○ 相手の質問に答えたり、自分のことを伝えたりしよう。 ○ 全員が会話に参加して盛り上がりよう。 （自然な会話になるといいな。）
Program	Please tell me about technology	①どの生物のどんな特徴を

4	inspired by living creatures. ～p.55 の語句を使って、生物をヒントにして作られたものについて、1分間で語ろう～	②どんなものに利用しているか ③考えたこと・学んだこと
Program 5	Make a speech about working or work experience. ～「職場体験」で経験したこと、学んだこと、考えたことについて、1分間でスピーチをしましょう～	【Writing 6点 Speaking 4点 計20点】 Writing 【正しさ】と【内容の充実】 Speaking ・声量・スピード ・発音・イントネーション・なめらかさ ・発表態度（ジェスチャー、アイコンタクトなど） ・時間いっぱい ・暗記
Program 6	Choose one person and talk about him. ～特に感銘を受けた人を選び、その人の人生や功績、そこから学んだこと、考えたことを1分間で語ろう～	次の内容は必ず入れよう。 ①本文で分かった事実 ②自分が学んだこと・思ったこと
Program 7	Let's talk about Japanese pop culture with your friends. ～海外で人気の日本のポップカルチャーについて、知っていることや自分の経験、考えをまじえて、友だちと語ろう～	3人組（4人組）で3分間話します。（グループは直前にくじで決めるので、誰といっしょになるかわかりません） じゃんけんをして勝った人から話し始めます。 ○ 自分から話題を広げたり、進んで質問したりしよう。 ○ 相手の質問に答えたり、自分のことを伝えたりしよう。 ○ 全員が会話に参加して盛り上がろう。 （自然な会話になるといいな。）
Program 8	What did you think when you read about Sadako and paper cranes? ～自分の考えたことを、根拠となった内容と共に書こう。平和の維持のためにあなたは何かができますか？～	Writing 【正しさ】と【内容の充実】

## Unit Goal 3年生（令和7年度）

Program 1	Talk about <i>bento</i> culture in Japan. ～「日本の弁当文化」について、 ①本文で学んだこと ②感じたこと・考えたこと について、1分間で語りましょう～	全ての Part について語る必要はありません。次の例を参考に！ ・キャラ弁や駅弁に代表される「日本の弁当文化」 ・コンビニでのフードロス
Program	Talk about	[評価の仕方]

2	<p>a “good” sleep.        ~「睡眠が生活に与える影響」について、わかったこと、考えたこと、自分の睡眠について、1分間で語りましょう~</p>	<p>○本文で学んだこと 1項目につき1点        ・睡眠と健康 ・必要な睡眠量        ・よい睡眠とは? ・睡眠と入浴        ・睡眠とスマホ ・昼寝の効果(企業の取り組み)        ○自分のこと 1文につき1点        ・自分の経験 ・考えたこと        ○文章の組み立ての工夫 1点        ○時間いっぱいスラスラ話せる 1点        ○大きな英語の間違え(語順、主語+動詞なし) マイナス1~2点</p>
Program 3	<p>Share information about the sports you are interested in.        ~友達と語り合います。興味のあるスポーツについて調べ、その成り立ちやルール、自分の思いを友達に伝えよう!~ (3人組で5分)</p>	<p>〔評価の仕方〕        主語+動詞のある文をカウントします。        ○伝える 1文につき1点        ・自分の興味あるスポーツは何か        ・そのスポーツへの思い        ・友達が知らない新情報(成り立ち・ルールなど)        ○聞く、聞き出す 1文につき1点        ・話を広げている ・質問している        ・相手の話に感想を述べている        ○全員が会話に参加している 1点        ○時間いっぱい会話が続いた 1点</p>
Program 4	<p>Make a speech about sign languages.        ~手話について、        ①わかったこと        ②考えたこと        ③体験したこと        を中心にまとめ、1分間でスピーチをしよう~</p>	<p>【Writing 6点 Speaking 4点 計20点】        Writing        【正しさ】と【内容の充実】        Speaking        ・声量・スピード        ・発音・イントネーション・なめらかさ        ・発表態度 (ジェスチャー、アイコンタクトなど)        ・時間いっぱい        ・暗記</p>
Program 5	<p>Read or make a speech like Ken or Emily.        ~聞き手に内容が伝わるように        ①読もう ②スピーチ(暗唱)しよう~</p>	<p>4つの評価項目で評価する。        ①発音の正確さ ②声量・感情 ③強勢・リズム・イントネーション ④暗唱</p>
Program 6	<p><b>What can we do to reduce plastic waste?</b>        Have a group discussion about it based on what we learned in Program6.        ~プログラム6で学んだことをもとに、自分たちに何ができるのか、</p>	<p>議題:『プラスチックゴミを減らすために』        [評価の仕方]        主語+動詞のある文をカウントします。</p>

	グループでディスカッションをしましょう。(4人組で6分間)～	
Program 7	①Think about <b>a robot</b> that can help people, or ②choose one of <b>Doraemon's tools</b> and think about what it can do for society.	<b>【手順】</b> ①5文程度の英文で書く。 ②グループで回し読みをして、感想や質問、アドバイスをもらう。 ③原稿を校正、加筆等する。(80～100語程度) ④先生の前にて1分程度で発表する。

### 【成果】

- ◎2年前、英語に対して苦手意識が強かった生徒たちが、ペアワークやグループワークを重ねながら、英語を使って話してみたり、書いてみたりすることに少しずつ慣れてきた。
- ◎「英語なんて大嫌い」と言っていた生徒たちが、今では「英語が分かってきて楽しい!」「英語は得点源。」と言ってくれるようになった。
- ◎仲間の Retell やスピーチを参考にしながら、自分の文に付け加えたり、自分の文を練り直したりする姿があった。
- ◎定期テストや総合テストにおいて、英作文の問題に対して苦手意識が強かった生徒たちに「とりあえず書いてみよう」という姿勢が見られるようになってきた。

### 【課題】

- △年間を通して、どの学年も4技能5領域をまんべんなく Unit Goal として設定したい。
- △「まずはやってみよう」という気持ちを持たせることが何よりも大切だと感じた。
- △繰り返し練習していく中で、自信をもって英語を使える場面設定を仕組んでいきたい。

## (6) 上田市立長小学校英語における ALT との連携を通じた授業実践

### (1) 研究の背景と目的

小学校英語において、ALT は児童が「生きた英語」に触れる貴重な存在であり、子どもたちの英語への意欲や理解をより高めていくためには、ALT との連携が不可欠である。しかしながら、毎回の授業について担任と ALT が十分な打ち合わせ時間を確保できていない現状があった。今年度来られた ALT の方は毎回指導案を事前に提出し、確認を取ってくれる方だった。指導案には児童の活動内容が明確に示されており、担任は事前に目を通すことで短時間の打ち合わせが可能となる。そこで本年度は担任と ALT が少ない打ち合わせの時間でも授業のねらいや流れを共有することができる体制を目指した。

### (2) 実践の概要

- ・日時 : 11月 25日 3校時
- ・教材 : 小学校3年生 Let 's Try I
- ・単元名 : Unit 7 This is for you. 「形の言い方になれよう。」
- ・授業時数 : 全5時間中第1時

English Lesson Plan		Unit & lesson number: <i>Unit 7 ①/②</i> <span style="float: right;">G3 U.OES</span>	
英語の打ち合わせ		ユニットとレッスン番号: <i>This is for you.</i>	
Date and time: <i>2025 November 25 (T)</i>		Teacher & grade: <i>Zino S.</i>	
何曜日・何時開講: <i>(9:25 - 10:10) ②P</i>		Number of students: <i>15 sts.</i>	
Future learner's objective:			
将来の目標:			
Current lesson learner's objective: <i>「形の言い方になれよう。」</i>			
今日の目標:			
Procedures 内容			Time 何分
	ALT	Teacher 先生	
① Greeting:	> Say "Hello" to everyone. > How are you?		2"
② Today's Goal:	(see above; HRT writes on the board.)		
③ Warm-up!	> What can you see? Small talk > What's this? <i>(pp. 26-27)</i>		3"
④ Let's chant:	"What do you want?" (△, □, ○) ○ □ △ ☆ (On the board) Students: Plus Vocab. (Brainstorming)		5"
⑤ Vocabulary:	(Circle, Square, Triangle, Rectangle, Heart, Diamond, Star)		
⑥ Ppt.	: On "Shapes"		10"
⑦ Game:	• Keyword Game • Hiding Game		20"
⑧ Reflection:	> (Use the WS)		5"
⑨ Closing:	> "See you next time!"		
Additional notes for this lesson: <u>U7 Vocabulary:</u> ○ circle      △ triangle      ♥ heart □ square      ◇ diamond      ☆ star ▭ rectangle			

(3) 授業前の打ち合わせ内容 I

- ・ Today 's Goal の確認
- ・ 児童に付けさせたい表現
- ・ ALT と担任それぞれの役割の共有

(4) ALT との連携の工夫

- ・ 役割の明確化

役割を明確にすることで、授業がスムーズに進行し、児童も安心して活動に参加することができる。

ALT      自然な発音・イントネーションの提示  
         英語のやり取り、モデル会話  
         児童への肯定的フィードバック

担任      活動や流れの説明  
         日本語による補足・安心感の確保  
         児童の様子を見取り、必要に応じて支援

## (5) 成果と課題

今回の授業は学校教育課指導主事と AtoZ の方が参観をされました。以下がそのときの感想の一部です。

○OTT の連携がよかった。テンポがとてもよい。

○クイズ等で繰り返し発話したり考えたりする「チャンスのある授業」が良かった。

○Today 's Goal が最初に提示され、繰り返し確認されていたので、子どもたちがゴールを意識して授業に向かっていた。

○打ち合わせがしっかりできているのが分かった。少しの時間でも打ち合わせをしていくことが大事。

以上のような感想が出ました

このように指導案を共有シートとして活用することで、限られた時間の中でも効果的に ALT と

連携した授業を行うことが可能であることが分かった。

課題としては、全ての ALT の方がこのようなスタイルをとっていないため、ALT の方が変わっ

てしまうと変更されてしまうことや英語に苦手意識のある担任の場合、ALT 任せの授業に陥りやすいことが考えられる。

## 五 研究のまとめと成果

冒頭のテーマ設定でも述べたように、本年度は教育課程研究協議会の在り方が見直され、他校の実践を見る機会が減少した。しかし、日々の授業実践は絶え間なく続いている。そうした中、英語科学習指導委員会では、委員の先生方の各自の実践レポートにまとめた。

委員の先生方の実践に共通していることは、「目的・場面・状況の効果的な設定」である。誰に、どんな場面で、どんな状況で、何のために伝えるか子どもたちが理解することで、子どもたちは自然と伝える内容を吟味し、練習し始める。そのことが、研究テーマでもある「主体的・対話的で深い学び」につながっていくと考えられる。また、「目的・場面・状況」は、誰にどのような場面でどんな状況下で自分の思いや考えを伝えるか考える必要があるので、「思考・判断・表現」の力を高めるためには欠かせないものである。これからの時代、「知識・技能」を高めることももちろん必要だが、その「知識・技能」をどのような場面で、どうやって活用していくか判断し表現する力が求められてくると考える。委員の先生方や日々の先生方の実践の様に、言語活動を通して、そうした力を高める様な授業づくりをするにはどうしたらよいか、今後も日々の先生方の実践から研究を深めていきたい。